ソーシャルスキルが 痛み共感および心理要因に与える影響

○田中陽一^{1,3}・大住倫弘^{1,2} (非会員)・森岡周^{1,2} (非会員)

(¹ 畿央大学大学院健康科学研究科・² 畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター・³ 奈良県総合リハビリテーションセンター)

キーワード: ソーシャルスキル, 痛み共感, 心理要因

The influence that social skill gives in pain sympathy and a psychology factor

Yoichi TANAKA^{1,3}, Michihiro OSUMI^{1, 2}, Shu MORIOKA^{1, 2}

(¹ Graduate School of Health Science, Kio Univ., ² Neuro Rehabilitation Research Center, Kio Univ., ³ Nara Prefecture General Rehabilitation Center)

Key Words: social skill, pain sympathy, psychology factor

目 的

WHO の定義によると, ソーシャルスキルは日常生活の中で出会う様々な問題や課題に効果のある対処ができる能力とされている。また, ソーシャルスキルに優れる者はストレスに晒された時に周囲からのサポートを受けやすく, ネガティブな心理状態に陥りにくことが報告されている (Cohen, 1986)。一方, 痛み共感他者の嫌悪的な感情状態を共有する共感能力の一つとされており, 他者の心の痛みを感受することは, 社会的環境と相互作用していくうえで重要とされている (梅田, 2014)。しかし, 共感能力には個人差があり, 個々の個人因子が関与していることが示唆されている。そのため, 良好な社会関係の構築に必要なソーシャルスキルが, 痛み共感と何らかの関係性を有していることが考えられるが, この関係性を検討した研究は見当たらない。そこで本研究は, 共分散構造分析を用いて, ソーシャルスキルと痛み共感および各要因について相互関係性を検証した。

方 法

【対象】身体・精神疾患を有していない健康成人 91 名 (平均年齢±SD: 36.5±12.7 歳, 性別: 男性 36 名, 女性 55 名) であった。対象者には本研究の趣意を十分に説明し, 同意を得て行った。

【質問紙】ソーシャルスキルは 6 つの下位項目 (「関係開始」「解説」「主張性」「感情統制」「関係維持」「記号化」) からなる成人用ソーシャルスキル自己判定尺度を使用し, ソーシャルサポートには Multidimensional Scale of Perceived Social Support (MSPSS) を用いた。心理的評価には抑うつを Beck Depression Inventory (BDI), 孤独感を UCLA 孤独感尺度日本語版を用いた。

【痛み共感課題】本実験では, 痛み共感を誘発するために痛みを連想する画像を PC モニターに映して被験者に提示した。痛み共感を誘発する画像は, 手に生じる表在感覚性の痛み (ハサミで指を切る, 包丁で指を切る) で統一し, 先行研究を参考に独自で作成したものを使用した。対象者には PC モニターに提示される画像を「自分がその状況だとどんな感じがするか」イメージしながら観察するように指示し, イメージで生じた疼痛強度を Visual Analog Scale (VAS) を使用して評価した。なお, 痛み共感課題は各評価用紙の記入を終えた後に実施した。

【統計解析】まず, ソーシャルスキルと痛み共感, 心理要因それぞれの変数の相関関係を調べるために, ピアソンの積率相関係数を算出した。その後, 各要因間の関連を検討するために共分散構造分析を実施した。有意水準は 5% とした。なお, 本研究は畿央大学倫理委員会の承認を得ている。

結 果

ソーシャルスキル合計値と年齢, ソーシャルサポートに有意な正の相関関係がみられた。ソーシャルスキルと心理的評価との相関関係では, 抑うつ, 孤独感ともに有意な負の相関関係を示した。ソーシャルスキルと痛み共感の相関関係では合計値に加え, 下位項目の「関係開始」「感情統制」「記号化」で有意な正の相関関係を示し, 「関係開始」がその中で最も高い関係性を示した ($r = .38, p < .001$)。

共分散構造分析では, 相関分析の結果を参考にソーシャルスキルの「関係開始」と痛み共感および各要因間の関係性を調査した。最終的に適合度が高くなったモデルの結果を Figure. 1 に示す。「痛み共感」には「関係開始」からの直接的な関与が示された。また, 「関係開始」は「心理状態」に対し直接的に関与するとともに, 「ソーシャルサポート」を介して間接的にも関与することが示された。「関係開始」に関与する要因として「年齢」の影響が見いだされた ($6FI = .97, CFI = .99, RMSEA = .02$)。

Fig. 1. 各変数間の関連を示す共分散構造分析の結果

考 察

本研究の結果, 「痛み共感」に影響を与える要因として, ソーシャルスキルの「関係開始」が直接的に関与していることが示唆された。また, 良好な心理状態の形成, ソーシャルサポートの獲得には個々のソーシャルスキルが関与していることが示され, 先行研究と類似した傾向を示した。

引用文献

- Cohen et al. (1986). Journal of Personality and Social Psychology, 50, 963-973.
梅田聡 他. (2014). 共感, 岩波書店.